

## 小学校教師向け広報活動

### ～東京都/福岡市社会科研究会による海運関連施設の見学会について～

日本船主協会 総務部(広報)

当協会は、海運の重要性について広く理解いただくため、様々な広報活動を行っている。特に教師/児童など学校関係者向けには積極的かつ地道に業界のPRを継続していく必要があり、この一環として、小学校教師で構成される社会科研究会(副教材の作成等を行っている会)を対象に、関連団体等とも連携し海運関連施設の見学会等を実施している。

2012(H24)年度は昨年度に引き続き、7/8月の夏休み期間に東京都/福岡市の同研究会見学会として実施し、東京都は47名、福岡市は21名の小学校の教師が参加した。それぞれの見学会概要は以下の通り。

#### 【東京都：2012年7月31日(火)】

石油連盟との共催で、東京都小学校社会科研究会の教師を対象に実施。

- ① 富士石油 袖ヶ浦製油所(千葉)にて石油に関する講演。その後、同製油所内施設を見学。
- ② 東京みなと館にて、海運の現況について説明後館内を見学。
- ③ 東京水辺ラインに乗船し、青海・\*大井CTを海上から見学。  
(\*大井CTではちょうど3社の本船が荷役中。)

#### 【福岡市：2012年8月20日(月)】

国土交通省九州運輸局/九州地方海運組合連合会/博多港振興協会の協力を得て、福岡市小学校社会科研究会の教師を対象に実施。

- ① 博多港香椎コンテナターミナルを見学(ポートガイドによる説明)
- ② 出前講座：九州運輸局 江本次席海技試験官から「船で働く人たち」を講演。
- ③ 福岡市営渡船「なのつ」に乗船し、海上から博多港を見学。
- ④ 三井倉庫九州の定温倉庫を見学。

両見学会では、日常生活に必要な物資やエネルギーの資源など日本の貿易物資のほとんどが海上輸送に依存している等、海運の役割や円高問題、国際競争力、海賊問題を含む海運の現状について当協会から説明を行った。東京都の見学会では、バスでの移動中にDVD「海の上のプロフェッショナル」を上映し、船員(海技者)という職業の魅力を紹介した。今回初めて訪れた東京みなと館では、眼下に停泊中のコンテナ船についても同館ガイドにより適切に説明された。また、福岡市の見学会では、同移動中にDVD「日本の海運」を上映し、海運の役割や重要性を言及した。

参加した教師からは、以下の意見等がアンケートに寄せられた。

- 海運は日本の大動脈だということを知り、国民が広く認識しないといけないと思った。
- どんな船で物資が運ばれ、どのような過程を経てガソリンが届くのかを理解した。
- 海運のことが実地で見られてよかった。コンテナ輸送のことがよくわかった。
- 普段見ることができないコンテナターミナルなどを見学でき勉強になった。
- 私たちの暮らしが海運業によって支えられ、海運に携わるたくさんの職業があることを児童に伝える。

本見学会を通じ、できる限り多くの小学校教師が海運業界に関心を持っていただき、授業の中で海運の役割について児童と一緒に認識していただくことを期待するとともに、今後も積極的に学校関係者向けの広報活動を続けていきたいと考えている。

## 東京都社会科研究会見学会(千葉・東京)



富士石油(株)袖ヶ浦製油所施設内



袖ヶ浦港に停泊中の LNG 船  
(左記施設内見学中に滞港)

## 東京みなと館からの眺め



## 東京水辺ライン(海上)から様々な船や港湾施設を見学



## 福岡市社会科研究会見学会(博多港)



香椎 CT では NHK が見学会取材



PCC 停泊中

以上